

Japanese
Who Is God?
50-0815

神とは誰か？

クレーブランド オハイオ州 アメリカ合衆国
1950年08月15日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

神とは誰か？

1 こんばんは。

とても嬉しく思います。今夜またここに立って、聖書を読み、病める方々や必要を持つ方々のために祈ることができるのですから。

昨夜、主が与えてくださった大いなる勝利の知らせを聞いて、私は本当に喜びました。集会の終わり頃になると、主の御霊が突然に解き放たれるように人々の上に下り、主の栄光のために素晴らしいことがなされたと聞いています。私はそのことを心から感謝しています。そしてそれは、毎晩でも起こり得るのです。

昨夜は、簡易ベッドに横たわったままの方や、救急担架に乗せられて来られた方もおられたそうです。もちろん、それは後で人から聞いて知ることです。というのは、祈りの中に入ると、私は自分の周囲の状況に対してほとんど無我のようになるからです。

しかし神は、信仰の祈りを尊ばれます。

神は、ご自身を信じる人々の信仰を尊ばれます。

あなたもそう信じますか。

私は、心の限りを尽くしてそれを信じています。

2 さて、集会は続いておりますが、私たちは今、本当に栄光に満ちた時を過ごしていると感じています。

今日は牧師の兄弟方とお話する機会がありました。今朝、朝食にお招きいただいたのです。そこで、さまざまな教会から来られた立派な牧師の方々と、個人的に親しく知り合うことができ、本当に嬉しく思いました。

ある方はペンテコステ派から、ある方はフォースクエアから、またある方はチャーチ・オブ・ゴッド、そしてミッショナリー・フェローシップの教会から来ておられました。そうした愛する兄弟たちが、皆ひとつとなつて共に集っている——それこそが、あるべき姿です。

神が私たちと共に働かれるのは、まさにそのような時です。

牧師たちの心が一つになるなら、その心がやがて教会をも一つにするので

す。

- 3 ご存じのとおり、私は、イエス様が現われるその日、
「どの教派に属していたか」を主が私たちにお尋ねになるとは思いません。
私たちは、心の中でキリストをどう扱ったか——
そのことによって裁かれるのです。
キリスト教とは、ある特定の教会に属していることではありません。
それは、神の御国に生まれた者であるということなのです。そうでしょう。
さて、今日、多くの教派の中には「御血」を否定するところもあります。
しかし兄弟姉妹よ、もしこの場からキリストの御血を取り去ってしまうなら、
それはもう、ただの哲学か、何かの思想にすぎません。

贖いを成すのは御血です。

救うのは御血です。

癒すのも御血です。

清めるのも御血です。

神の真実なるもの——それは御血なのです。

- 4 そして今夜も、人々がなおキリストの御血を信じていることを、私は本当に嬉しく思います。御血——キリストの御血です。

今日広まっている、いわゆる社交的な福音や、「御血などというものはない」「聖霊など存在しない」と言い回るような異端の教えを、私は信じません。兄弟姉妹よ、そのように言うなら、その人はクリスチャンではありません。なれないのです。

人は新しく生まれなければ、決してクリスチャンにはなれません。どれほど立派に信仰を告白しようとも、それだけでは足りないのです。

主は言われました。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主である』とは言えない」と。

もしあなたが、ただ他の人の言ったことをそのまま受け取っているだけなら、それは人の言葉に基づいているにすぎません。しかし、聖霊があなたを満たし、その御臨在によって証ししてくださらない限り、あなた自身の確信にはなりません。

あなたは「イエス・キリストは神の御子である」と信じているかもしれませんが。しかしそれが、聖霊によってあなたの内に証しされるまでは、それはまだ誰かから聞いた話にすぎないのです。

それが本当の証しなのです。

5 私は、かつて同じ教会に属していた愛する兄弟のことを思い出します。

彼はこう言いました。

「ブラナム兄弟、聖書にはこう書いてあります。『イエス・キリストが神の御子であると信じる者は、神の御霊によって生まれた者である』と。」

私は答えました。

「それと同時に、こうも書いてあります。『聖霊によらなければ、だれもイエスをキリストであると言うことはできない』と。」

——そうでしょう。すべてはそこなのです。

彼は言いました。

「しかし、もし信じているなら……」

私は言いました。

「それでは、あなたは誰かが言ったことをそのまま受け取っているにすぎません。あなた自身が証しを持たなければならないのです。自分で知らなければならないのです。」

母が言ったこと、父が言ったこと、牧師が言ったこと——

それを繰り返しているだけかもしれません。

しかし主がペテロにお尋ねになりました。

「あなたがたは、わたしを誰だと言うのか。」

ペテロは答えました。

「あなたはキリスト、生ける神の御子です。」

主は言われました。

「バルヨナ・シモン、あなたは幸いである。肉と血があなたにこのことを明らかにしたのではなく、天におられるわたしの父がそうされたのだ。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てて。陰府の門もそれに打ち勝つことはできない。」

その岩にしっかりと立ちなさい。

正しいことを行いなさい。

そうすれば、神はあなたを祝福して下さいます。

6 それでは今夜は、ルカによる福音書第7章1節から10節をお読みしたいと思います。

私はいつも聖書を読むように努めています。なぜなら、神はご自身の御言葉を必ず尊ばれると知っているからです。

さて、イエスはこれらの言葉を群衆に語り終えられると、カペナウムに入られた。

ある百卒長のしもべが病気で、死にかけていたが、そのしもべは主人にとって大切な者であった。

百卒長はイエスのことを聞き、ユダヤ人の長老たちをイエスのもとに送り、来てそのしもべを癒して下さるよう願った。

彼らはイエスのもとに来ると、熱心に願って言った。「あの人は、そうしていただくのにふさわしい者です。」

彼は私たちの国民を愛し、会堂を建ててくれました。」

そこでイエスは彼らと共に行かれた。しかし家からそう遠くないところまで来られたとき、百卒長は友人たちを送り、こう言わせた。

「主よ、ご足労なさらないでください。私は、あなたを屋根の下にお迎えするにふさわしい者ではありません。」

いのちの創始者、

すべての良き賜物の与え主よ、

この民の上にあなたの祝福を注いでください。

信じなさい、皆さん。

今、イエス・キリストの御名によって——

ここにいてすべての信じる者よ、信仰を持ちなさい。

姉妹、神はあなたを癒されました。

信じ続けなさい。

手を挙げて、今この瞬間、主を受け入れなさい。

「主よ、私は信じます」と言いなさい。

祈祷カードはもう必要ありません。

皆、信じなさい。

カードを手放しなさい。

「私はキリストを信じます」と告白しなさい。

それが道です。

ハレルヤ。

主があなたを癒されました。

皆さん、こちらを見てください。

信仰を持ちなさい。

疑わないでください。

目を主に向け続けなさい。

60 その姉妹——

緑色の服を着て、車椅子に縛られているように座っているあなた。

信じますか？

立ち上がってください。

イエス・キリストがあなたを癒されました。

さあ、皆で言いましょう。

「主をほめたたえよ！」

誰が聖霊によって癒されたいですか？

どなたか、その姉妹を立たせてあげてください。

ほら、立ち上がっています。

縛られていたところから、歩き始めています。

皆で言いましょう、

「主をほめたたえよ！」

前に出てきなさい。

今、イエスをあなたの癒し主として受け入れなさい。

信じて進みなさい。

全能の神、

(ああ、私はこの言葉が大好きです。)

「それで、自分があなたのもとに出向くことさえふさわしくないと思いました。

ただ、お言葉をください。そうすれば、私のしもべは癒されます。」

「私もまた、権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいます。ひとりに『行け』と言えば行き、ほかの者に『来い』と言えば来ます。しもべに『これをせよ』と言えば、そのとおりにいたします。」

イエスはこれを聞いて彼に驚き、振り向いて従っていた群衆に言われた。

「あなたがたに言いますが、これほどの信仰を、イスラエルの中にも見たことがありません。」

使いに送られた人々が家に帰ってみると、病気であったしもべは、すっかり良くなっていた。

主は御言葉を尊ばれます。

そしてその御言葉をそのまま信じる信仰を、主は喜ばれるのです。

7 しばらく祈りましょう。

天の父よ、私たちは今夜も再びあなたの御前に参りました。

今や第二週に入り、長い集会の連続となっております。

ここに並んでいた多くの簡易ベッドが、今夜は空になっていることを感謝します。

縛られたように座っていた多くの方々が、今は健やかな人々の中を歩いていることを感謝します。

病み、苦しみ、死の間際にあつた多くの人々が、今や癒されていることを感謝します。

主よ、これらすべてのことを、私たちは感謝いたします。

罪の鎖に縛られていた多くの罪人たち——何百人もの人々が悔い改め、神を知る認識へと導かれ、御子キリスト・イエスの御血によって、聖霊との交わ

りへと入れられました。

主よ、そのことのゆえに、私たちはあなたを愛します。

そして今夜、第八夜目が始まります。

主よ、今夜が御言葉を囲む真実な交わりの時となりますように。

神の御霊を囲む深い交わりの時となりますように。

今、私の声を聞いているすべての人が、今夜ひとつの大いなる前進を経験し、癒される信仰を受け取ることができますように。

あなたの御臨在のゆえに、長く記憶に残る栄光の集会となりますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

8 主よ、今夜語られること、あるいはなされることが、さまよっている者をキリストへと立ち返らせるものとなりますように。

私たちは信じ、また御霊において強く感じています——

この地には大いなる裁きが迫っていると。終わりの日にあつて、疫病や病原菌がすでに作り出され、諸国にまき散らされようとしています。医者でさえ、それをどう扱えばよいのか分からないような時が来ています。

ああ神よ、その時には、私たちは神の癒しを信じるほかありません。

諸国が病原菌を作り、それを爆弾に仕込み、数時間のうちに何百万もの人が死ぬような時代が来るとしても。

しかし、ああ、私たちは何と感謝すべきことでしょう。

滅びの御使いが進み出たとき、あなたは言われました。

「額に父の印を受けている者には触れるな。彼らはわたしのものである。」

今夜、御血の下にあること——安全に守られていることを、私たちは何と喜ぶことでしょう。

昔、イスラエルが戸口のまぐさと門柱に血を塗ったように。

預言者としての言葉を受け取りますか？

その子は、生まれつき耳が聞こえず、話すこともできませんね。

——その通りですか？

イエス・キリストがその子を健やかにされます。

ハレルヤ。

イエス・キリストは同じ神です。

こちらで手をたたいている姉妹。

その小さな男の子のそばに座っている、目の見えない姉妹。

信仰を持ちなさい。

イエス・キリストがあなたを癒し、健やかにされます。

心から信じますか？

信じますか？

そばの姉妹、腕に触れてあげてください。

心から信じていますか？

立ち上がって、こちらへ来てください。

信仰を持ちなさい。

疑わないでください。

今、視力が戻っています。

そのまま、こちらへ歩いてきなさい。

ハレルヤ。

神をほめたたえます。

神があなたを祝福されますように、姉妹。

あなたはてんかんで苦しんでいますね。

そうでしょう？

神に信頼しなさい。

主があなたを良くしてくださいます。

完全に癒されるかもしれません。

心から信じますか？

主を礼拝し、信じ続けなさい。

その小柄な姉妹。

あなたの婦人科の問題は、

そこに座っている間に、約10分前に去りました。

立ち上がってください。

あなた、その方に腕を回している姉妹。

とても神経が高ぶっていましたね。

あなたも癒されました。

その隣の、目の問題を抱えていた姉妹も、

数分前に癒されました。

あなたは癒されています。

神の祝福がありますように。

59 さあ……どうして指をさしているのですか？

その小さな女の子ですね。

こちらを見てください。

イエス・キリストが私をここに遣わされたと信じますか？

十字架のしるしとして。

死の御使いが地を掃き渡るとき、暗い翼が覆いかぶさりました。しかし血を見ると、それは上へと引き上げられ、「わたしはあなたの上を過ぎ越す」と言われたのです。

その御血の下にあること。

それが私たちの安全です。

9 待ち望みつつ――

犠牲の小羊はすでに屠られました。

私たちはその御血の下に身を置き、安全に守られながら、ああ神よ、「進軍せよ」との号令がかかる真夜中の時を待っています。

その夜の一つに、私たちは約束の地へと出て行くのです。

腰には帯を締め、足には平和の福音の備えをはき、福音の全き武具を身に付けて、前進します。

愛する神よ、今夜、しっかりと帯を締めさせてください。

門柱と鴨居をよく調べ、そこに御血があるかを確認させてください。

そして、あらゆる敵に立ち向かって前進させてください。

私たちの大いなる総大将が共におられることを知りつつ。

ヨルダン川を渡った後、ヨシュアに現れたあのお方――

「わたしは主の軍勢の将である」と言われた方。

ああ神よ、ヨシュアは震えました。あなたが導いておられることを知ったからです。

そして今夜、明けの明星は私たちの上に輝いています。

旗は翻り、軍旗はなびいています。

失敗することのないお方に信頼するなら、私たちは必ず勝利します。

主よ、今夜、多くのことがなされますように。

あなたの御霊をお送りください。

人々に信仰をお与えください。

時にそれは彼らを驚かせます、父よ。

この御臨在、この偉大なるお方——旧約のエホバ、新約のイエス、そして今日の聖霊——

今夜ここに立ち、ご自身の約束を一つ残らず成就しようとしておられる、その事実を。

主よ、私たちを祝福してください。

そして、これらすべてに続くものとして、あなたの賜物をお送りください。

それが働いて人々を建て上げ、教会を徳とし、私たちにあなたの御臨在を悟らせるものとなりますように。

あなたの御子、イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

10 夜が更けていきます。

もちろん、私は疲れます。だんだんと、さらに疲れていきます。

しかしこれは真実だと信じています。

肉体の人が衰えるとき、霊の人が働く機会を得るのです。

断食などは、そのためにあるのです。

私たちのこの五感に働きかけ、神を信じ、神に信仰を置くように導くために、霊が働く機会を持つのです。

今夜読んだあの百卒長の態度が、私は好きです。

彼は、自分はふさわしくないと感じていました。

あなたが求めている祝福に対して、自分はふさわしくないと感じている限

立ち上がってください。

イエスが今、その関節炎を取り去られます。

ハレルヤ。

神に信頼しなさい。

赤い帽子の姉妹。

こちらを見てください。

心から信じますか？

少しだけ、こちらを見てください。

あなたはがんで苦しんでいますね。

そのがんで手術を受けましたね？

しかし、うまくいかなかった。

今、イエス・キリストがあなたをそのがんから解放されました。

信仰を持ちなさい。

信じなさい。

58 そちらの姉妹、隣に座っている方。

癒されたいですか？

私を見て、信じてください。

神が私を遣わされたと信じますか？

あなたは別の教会に属していますね。

そうですね……クエーカー派ですね？

その通りなら、手を挙げてください。

——そうです。礼拝している場所のしるしが見えます。

「主をほめたたえよ！」

これが、神が民のためにしたいことです。

喜びながら進んでください。

57 車椅子に座っている姉妹——

ああ、ご自身ではなく、お子さんのためですね。

こちらを見てください。

そのお子さんは、けいれん性の症状がありますね。

あなたは心に思いを抱いていました……。

ああ、わかりました。

あなたは以前、私の集会に来られたことがありますね？

そうでしょう？

いえ、この集会ではなく、別の集会でしたね。

そして、小さな娘さんがおられました。

ひどい斜視でした。

でも、その子は癒されました。

そうですね？

その通りなら、手を挙げてください。

——それは真実ですね。

神があなたを祝福されますように。

イエス・キリスト、神の御子は決して失敗なさいません。

そこの姉妹、どう思いますか？

関節炎で苦しんでいますね。

り、あなたはそれを受ける可能性が高いのです。

しかし、神が当然それを与えるべきだ、と考えるようになるとき——

そのとき、あなたは間違っています。

神が私たちに借りがあるのではありません。

私たちが神に負っているのです。

私たちは神に対して、負債のある者なのです。

11 このローマ人——イタリア人であったのでしょうか——彼は言いました。

「主よ、あなたを私の屋根の下にお迎えする資格は、私にはありません。

また、あなたの御前に出ることさえ、ふさわしくないと思いました。」

つまりこういうことです。

「あなたの教会の人々をお送りしてお願いしました。しかし私は信じています。あなたは権威の下にあるお方です。私もまた権威の下にある者です。ですから、わざわざ私の家に来て、しもべに手を置く必要もありません。ここに来て祈る必要もありません。」

よく注意して聞いてください。

彼は言いました。

「私もまた権威の下にある者です。そして、ある者に『行け』と言えば行き、別の者に『来い』と言えば来ます。私は権威の下にあり、私の下にいる者たちは私に従わなければなりません。」

彼は知っていたのです。

このお方が神の御子であり、あらゆる病も、あらゆる悪霊も、その権威の下にあることを。

主がなさるべきことはただ一つ。

祈ることではなく、ただ御言葉を語ること。

それだけでよいのです。

なぜなら、すべての悪霊は従わなければならないからです。

今夜、あなたはそれを信じますか。

すべての悪霊は神に従います。従わざるを得ません。

すべては神に従います。

そして、あなたが信仰を持つなら、それはあなたにも従うのです。

12 ヨシユアは太陽を止めました。

それは真実でしょうか。

ある人は言います。「神にはすべてが可能であり、不可能なことはない」と。

そのとおりです。

しかしまた、信じる者にとっても、すべては可能なのです。

信じる者に不可能はありません。

もしあなたが、神がどなたであるかを本当に知るなら、それはあなたの現実となるのです。

私は恐れています。教会が自らの権威を知らないのではないかと。

聖霊によって生まれた人々が、神が教会に許されたその権威を十分に悟っていないのではないかと。

「わたしはあなたに御国の鍵を与える。

地上で縛ることは天でも縛られ、

地上で解くことは天でも解かれる。

蛇を踏み、あらゆる病に打ち勝つ力を与える。

何ものもあなたを害することはない。」

信仰を用いなさい。

それを解き放ちなさい。

神の御言葉に基づく私の言葉を、権威として受け取りますか？

心から神に仕えなさい。

その問題から解放されます。

アーメン。

受け取りますか？

「アーメン」と言ってください。

56 そこに座っておられる紳士の方——

祈祷カードを手に持っていますね。

こちらを見てください、先生。

あなたが見えます。

あなたは関節炎で苦しんでいますね。

——そうでしょうか？

そして、その若い女性のお父様ですね。

その通りでしょうか？

立ち上がってください。

イエス・キリストがあなたをその関節炎から解放されました。

もうそれは必要ありません。

娘さんと一緒に、この建物を出て、神をほめたたえなさい。

あなたは今、癒されました。

祈祷カードはもう要りません。

床に置いて、歩いて行きなさい。

皆で言いましょう、

——あそこに、私を見つめている若い女性がいますね。

信じようとしている。

姉妹、心から信じますか？

神があなたの癒しのために、私をここに遣わしたと信じますか？

あなたと私は面識がありません。

私はあなたを知りません。

神はご存じですが、私はあなたについて何も知りません。

でも、こちらを見てください。

信じてください。

一つだけ分かることがあります。

あなたは、望んでいる生き方をしてきませんでしたね。

なりたいたいと思っていたクリスチャンの姿ではなかった。

勝利の歩みではなかった。

心の周りに暗さが集まっている。

——でも今、見えます。

あなたの問題はこれです。

もし私がそれを言い当てたら、信じますか？

……それは腎臓ではなく、膀胱の問題ですね。

炎症があります。

それが正しければ、手を挙げてください。

ありがとうございます。

家に帰りなさい。

神に御心のままに働いていただきなさい。

そうすれば、神はそれをあなたに成して下さいます。

13 それでは少しの間、神が誰であるのかを見てみましょう。

今夜、私は何かを求めています。神に一つのことを願いました。そして主はそれをかなえてくださると信じています。心からそう信じています。

どうか、あなたも祈っててください。主が語られるまで、私は語る事ができません。

ほんの少し時間をさかのぼって、神がどなたであるかを考えてみましょう。

時の初めに戻ってみます。

今夜、私たちのただ中で動いておられるこのお方が、どなたであるのか

——それを少しでも理解していただくために、ひとつの小さな絵を描くようにお話したいのです。

もしあなたが、そのお方がどなたであるかを本当に悟るなら、

癒しなどは二次的なこと、ほんの小さなことに思えるでしょう。

ただ、彼が誰であるかを、見る事ができるなら。

14 では、百億年さかのぼってみましょう。

さらにその百億年も越えて、なおさかのぼっていきます。

とにかく、どこまでもさかのぼっていくのです。

少し前に私はカリフォルニアにおりました。そこに天文台があります。大きなレンズがあり、光が一億二千万年かけて届くほどの宇宙空間を見ることができのです。光の速さを考えてみてください。それでもなお、その向こうにはさらに宇宙が広がっているのです。私たちは今夜、その広大な空間の中に吊るされているようなものです。

しかし、まだ何も存在しなかった時のことを考えてみましょう。

何もなかったその時に、すでに神はおられました。

初めにおられたのです。

そのお方を思い描いてみましょう。

空間のただ中におられるそのお方——それが今語っているエホバです。

そして、ほんの少しの間、その神の三位の働きがどのように人に現れてくるのかを見てみましょう。

15 そして、その広大な空間——

人の心では到底測り知ることのできないその領域、それが永遠です。

そこにおられるのがエホバなる神です。

初めに、ロゴス——すなわち神の御子が、神から出て来られたと教えられています。

さて、私は「永遠の子性」という考えを信じていません。

正直に言えば、そのような表現を用いること自体が、無理のあることだと思います。

もし「永遠に子である」というなら、どうして子であり得るのでしょうか。

子であるなら、そこには始まりがなければなりません。

子とは、始まりを持つ存在です。

ですから、「永遠の子」という言い方は成り立たないのです。

16 まず、神はエホバでした。

そしてその神から——

少し分かりやすくするために、ひとつの小さな劇のように思い描いてみましょう。

何も存在しないその空間から、ひとつの白い光が現れるのを想像してください。

神秘的な光、後光のような光です。

忠実でありなさい。

信じなさい。

今、この会衆を見渡していると……

何かが起きています。

私の中で、何かが動いています。

どうしても祈禱列を呼び出せない。

何かが違うのです。

私は、神が今夜、別のことをなさろうとしていると感じます。

私の祈りに、主が答えようとしておられる気がします。

皆さん、時間を引き延ばしているのではありません。

神は私の心をご存じです。

私はここに立っています。

聖霊が今、民のために何かをなさろうとしていると信じているからです。

ああ、なんと栄光でしょう。

皆さん、どうか祈りの中にいてください。

静かに、信仰をもって。

55 ちょっと待ってください。

今、会衆の中を見たいのです。

皆さん、こちらを見て、信じてください。

信仰をもって、この建物を巡るように祈りの輪を作ってください。

兄弟、神の祝福がありますように。

信じてください。

癒すのは、神への信仰です。

権威を信じなさい。

神を信じなさい。

見て、生きよ。

青銅の蛇は祈りましたか？

いいえ。

それは神からイスラエルに与えられた備えでした。

彼らは「見て、生きた」のです。

ベテスダの池の御使いも祈りませんでした。

人々は水に入って癒されました。

癒しは、ただ神によるのです。

こちらを見てください。

神は御言葉を語らせてくださいました。

私は神を信じています。

そして今、あなたにも信じてほしいのです。

54 祈祷カードはもう全部配られているのですね。

そうですね。きっとたくさんあります。

カードを見てください。

そこには病名や状態が書いてある。

でも、ここで分かるのはそれだけです。

では、どうしてそれを待たなければならないのでしょうか？

それなしで受け取ればいいのです。

それが、初めに神から出て来られたロゴスでした。

それが、父の懐から出て来られた神の御子でした。

「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。ことばは神であった。」

そして「ことばは肉となって、私たちの間に住まわれた。」

初めに神がおられました。

そしてその神からロゴスが出て来ました。

それは神の一部が神から出て来たのです。

ここをよく見てください。

これから先に進む前に、今夜私たちのただ中におられるお方がどなたであるかを理解していただくために、ほんの小さな絵として描いているのです。

そのお方が、今夜ここにおられるのです。

17 そしてその中で――

これは、ちょうど戸口の前で遊んでいる子どものような情景として考えてみてください。

それが神の御子、ロゴスでした。

私はそのお方をそこに見ます。

そしてそのお方が語られます。

「光あれ。」

すると、まだ何も存在していなかったのに、何かが起こります。

ひとつの原子が動き始め、渦を巻き出します。

やがて太陽が存在し始めます。

なぜなら、そのお方が「光あれ」と言われたからです。

そこに権威があります。

では、何から造られたのでしょうか。

分かりません。造る材料は何もなかったのです。

しかしそのお方は、ご自身の言葉を信じられました。

そして光が生じました。

私はそこから一片が飛び出すのを見ます。

それは流星となります。

何百万年、あるいは何百億年と呼ぶほどの時を経て、遠くを巡ります。

そのお方が立って、それを見守っておられます。

やがてそれが落ちてくると、数百万年の後に、それを止め、軌道にかけてそこに留められます。

また別のものが太陽から飛び出します。

それは別の場所へ行き、そこで止められ、軌道に置かれます。

すべては、その御言葉の権威によって動いているのです。

18 何をしておられたのでしょうか。

最初の聖書を書いておられたのです。

かつて人間は天を見上げました。

神は天に星々を置かれました。黄道帯を——乙女座から始まり、獅子座で終わるまで。

最初の来臨は乙女から。

再臨はユダ族の獅子として。

そこに最初の聖書が記されたのです。

古代の人々は、それらを見上げました。

今日、私たちはこの書かれた聖書を持っています。しかし神はまず、天にそれを書かれました。人が天を仰ぎ見て、創造主エホバが上におられることを悟

また、

「これらのしるしは信じる者に伴う。」

「わたしの油注がれた者に触れるな。わたしの預言者に害を加えるな。」

自分で戦おうとすると、神は戦えません。

立ち止まりなさい。神に戦っていただきなさい。

主が必ず成し遂げてくださいます。

主はすべての批判者を、すべての反対を、恥とされます。

兄弟姉妹よ、信じますか？

では、信仰に落ち着きましょう。

揺れずに、静かに、主を信頼して。

53 今夜、少し不思議な感覚があります。

神にお願いしました。

今夜こそ——

この夜が、人々から病が去る夜になりますように、と。

昨夜、少し突破がありました。

必要を抱えていた方々が立ち上がり、この建物から健やかに出て行きました。

今夜は、100パーセントでもよいのです。

可能です。

祈祷カードで一人ずつ扱うとき、私は一人ずつ向き合わなければなりません。

病名が示されることもあります。

けれど、それは「何が悪いか」を示すだけです。

私たちの弱さをその御体に負われました。

そして今、私たちを解放するために——

あなたは聖霊を送られました。聖霊はそのことを証しています。

あなたは御言葉を送られました。御言葉はそれを証しています。

あなたは牧師たちを送りました。彼らも証しています。

あなたは賜物を送りました。それもまた証しています。

ああ神よ、信仰の大きな腕がこの建物を通して動き、

必要を持つ人々を癒しますように。

私たちはそれを主の御名によって、

そして主の栄光のために願います。

アーメン。

52 ああ、本当に。

私は心の底から主を愛しています。

魂も、心も、思いも、すべてをもって主イエスを愛しています。

以前ある町で、こう脅されたことがあります。

「神の癒しを語るのをやめなければ、壇上に爆弾を投げるぞ」と。

私はこう言いました。

「煙が消える前に、私は栄光の中にいますよ。それで結構です。」

なぜ恐れるのでしょうか？

神が味方なら、誰が敵になれるですか。

聖書にはこうあります。

「わたしを信じるこの小さい者の一人をつまづかせるよりは、首に石臼をかけられて海の深みに沈められるほうがましである。」

るために。

そして私は、そのお方があの氷柱のようにぶら下がっていたこの地球に目を向けられるのを見るのです。遠く離れた場所にあったそれを、こちらへと動かされます。

あの小さな光が動くのが見えます。

今や二つがあります。父、そして父から出た光——御子。

その光が動き、地球を太陽の近くへと引き寄せ、乾かされます。水を上げ、陸と海を分けられます。

そして創造が始まります。

海の魚を造られ、植物を生じさせ、丘に家畜を置かれました。

すべては良しと見えました。

そこで言われました。

「われわれにかたどり、われわれに似せて人を造ろう。」

神は霊です。ですから人はまず霊の人として、神のかたちに造られました。

その人を地上に置き、動物の命を治めさせました。

それは今日、聖霊が教会を導くように、本来あるべき姿でした。

それこそが人でした。

19 そして、その人を地に置かれました。

まだ土を耕す者はいませんでした。

神はその人に五つの感覚を与えられました。

ここで科学者たちは混乱します。

神は、もし望まれたなら、猿のような手を与えることも、熊のような足を与えることもできたでしょう。何でもおできになったのです。

しかし神は、ご自身の霊を彼の中に入れ、彼を魂とされました。

そこが決定的な違いです。

私たちは動物から来たのではありません。

決してそうではありません。

私たちは動物的感覚の延長ではないのです。

神が私たちが造られたのです。

そのとおりです。

さて、その人は地上に置かれ、助け手が与えられました。

そして父なる神と祝福された交わりを持ち、語り合っていたのです。

20 そして、第二の人について考えてみましょう。

最初の人には目に見えませんでした。神は霊であります。

第二の現れは、後光のような光でした。

そして今、第三の段階として、小さな白い雲のように現れます。

それが聖霊が下って来られる姿です。

そこに完全な「人」があります。

それが人の魂であり、永遠のものです。

しかし、この人が罪を犯したとき、その魂は損なわれました。

黒さ、暗闇が入り込みました。

そこで神ご自身が降りて来られ、人の中に住み、人と共に苦しみ、人を贖われました。

そして聖霊が人の中に入って来られ、その黒さと罪を追い出し、再び完全な交わりへと回復させるのです。神の一部として。

キリストの御血によって、私たちは罪から清められ、神の息子、神の娘となります。

神とはどなたでしょうか。

父よ、どうか彼らに信仰をお与えください。

信仰は聞くことから来ます。御言葉を聞くことから来ます。

今夜、それをお与えください。

この会衆の上に、あなたの祝福の大いなる注ぎを与えてください。

男女が、それがあなたであると悟りますように。

御言葉が教えられるとき、

主を信じる信仰が起こりますように。

アーメン。

51 今、あの百卒長のことを思い起こします。

彼は言いました。

「主よ、あなたが私の屋根の下に入られる価値は、私にはありません。ただ御言葉を語ってください。私は権威の下にある者です。そしてあなたは権威を持っておられます。あなたが言われることは、そのとおりになるのです。」

主よ、今夜、男女がそのことを悟りますように。

あなたは今もなお権威を持っておられます。

足の不自由な者に対する権威、

盲目に対する権威、

がんに対する権威、

あらゆる病に対する権威、

そして罪に対する権威。

あなたこそ、その権威を正当に持つお方です。

あなたはそのために死なれました。

十字架で私たちの身代わりとなり、

必要なのはただ一つ。

心からイエス・キリストを信じること。

そうすれば癒されます。これを信じますか。

50 ああ、兄弟姉妹よ。

どうして今この場で、心を一つにして言えないのでしょうか。

「イエスよ、私はあなたを信じます。今、それを受け取ります。」

それがどれほど栄光に満ちたことでしょうか。

どれほど素晴らしいことでしょうか。

よく聞いてください。

使徒的な癒しの集会とは、まず御言葉を宣べ伝え、神が何をなさっているかを見て、それから信仰を見いだしたところで語ることです。

信じる男女を見つけ、神に信仰を持たせ、神を信じさせるのです。

そして神はそれを彼らに与えてくださいます。

信じますか。

祈りのうちにいましょう。

少しの間、神に助けを求めましょう。

主イエスよ、

真理は必ず人の心をつかみます。

真理は必ず働きます。

神よ、ここにいてすべての人をご存じです。

その状態をご存じです。

すべてをご存じです。

その信仰もご存じです。

そのお方は、星々を御手から転がし出し、

世界を御手から送り出し、

見えないものを創造されたお方——神性そのものです。

その神性ご自身が、人の中に住まわれるのです。

天地を造られた創造主が、人の中に住んでおられるのです。

21 そうでしょう。だからこそ、足の不自由な人がまっすぐ立てるのです。

創造主がここにおられるのですから。

盲人の目が開くのも不思議ではありません。

創造主がおられるのです。

私たちは、自分たちが誰であるかを悟っていないのです。

聖書は言います。「私たちは神の子どもである。」

神の子孫です。

イエスご自身も言われました。

「あなたがたは神々である、とあなたがたの律法に書いてあるではないか。」

私たちは、イエス・キリストを通して養子とされ、神の子となり、神の一部となるのです。

では、土を造り、地を造り、ここにあるすべてを造られたその神が、人の中に住んでおられると悟るなら——

友よ、私たちの信仰はどこにあるのでしょうか。

主は地上におられたとき言われました。

「わたしがしていることを、あなたがたもする。さらに大きなことをする。わたしが父のもとへ行くからである。

何でも祈り求めるとき、すでに受けたと信じなさい。そうすればそのとおり

になる。」

それを語っておられたのは創造主です。

そのとおりでしょうか。

ならば、問題は神の側にあるのではありません。

私たちの側にあるのです。

アダムが墮落によって失ったものを、キリストはその死によって回復されました。

それは、人を再び神との交わりに戻すためです。信じますか。

今、教会はその交わりへと招かれています。

エデンの園でアダムが持っていたような交わりへと。

すべての罪は取り去られ、罪に定められることはなく、聖霊が私たちを清めてくださいます。

そして今、あなたは次の段階へ進む自由があるのです。

神の中で。

22 私は、死にゆく人のそばに立ったことがあります。

自分は救われていると思いながら、死の間際にそれが揺らぐ人も見ました。

また、本当に救われていることを知り、勝利を叫びながら旅立っていった人も見ました。

あらゆる場面を見てきました。

だからこそ言います。

ここを去る前に、神との関係が正しいことを、あなた自身が確かめてください。

誰かの言葉に頼ってはいけません。

ご主人は少し控えめにしていました。

私は思いました。

「誰だろう？」

ご主人が言いました。

「ブラナム兄弟、私を覚えていませんか。」

「いいえ、分かりません。」

彼は言いました。

「あの精神病院に入っていた婦人を覚えていますか。」

「はい。」

「これがその人です。」

私は言いました。

「そうですか？」

彼は言いました。

「翌朝、あなたの言われたとおり施設へ連れて帰りました。」

「それから一度も問題はありませんでした。」

「施設に戻した翌朝、看護師が入ると、彼女は部屋で座っていました。」

「朝食を食べました。」

「三日目に退院し、正気で、普通の女性として家に帰って来ました。」

兄弟よ、ハレルヤ。

私は言います。

イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わらないお方です。

すべての悪霊は神の権威を知っています。

「ブラナム兄弟、信じるしかありません。」

そして尋ねました。

「彼女をどうしたらよいでしょうか。」

私は言いました。

「施設へ連れて帰りなさい。彼らに様子を見させなさい。」

疑わなければ大丈夫です。

あなたは今、あの婦人が私の名前を呼んだのを見ましたね。

彼女は私を知らないはずです。

私は言いました。

「サタンがその賜物を認識したのです。」

彼は言いました。

「あなたの言うとおりにします。」

私は言いました。

「神に感謝しながら、彼女を施設へ連れて帰りなさい。

いつの日か、彼女は家に帰って来ます。」

彼は言いました。

「分かりました。」

49 それから三週間ほど後のことでした。

ジョーンズ兄弟のところまで二日間の集会をしていました。

会衆を見渡していると、一人の男性とその奥さん、そして五人の小さな子どもたちが座っていました。三歳くらいの小さな子もいました。

その婦人がしきりに私に手を振っていました。

なぜだろうと思いました。

あなた自身が、神の前に正しいと確信しなければなりません。

さて、神性がここにおられます。

神性が私たちの中におられます。

「しばらくすると、世はもはやわたしを見ない。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。世の終わりまで。」

これは聖書です。

それならば、キリストは世の終わりまで教会の中におられるのです。

世界が終わるその時まで。

ならば、キリストがご自身の教会の中で働いておられる場所を見いだすことができるなら——

私は、その教会の中にいたいのです。

23 今日の「信者」について考えてみましょう。

多くの人はこう言います。

「あの人は立派な人だ。教会に十分の一をささげている。良い教会員だ。」

それは立派なことです。道徳的な生活です。

誰もそれを悪く言うことはできません。

しかし、私が語っているのはそれだけのことではありません。

イエスは「信者」を、もっと別の性質によって見ておられました。

主がこの世を去られる前に語られた最後の言葉はこうでした。

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。

信じてバプテスマを受ける者は救われる。

信じない者は罪に定められる。」

そのとおりですね。

どの教会も、そこまでは受け入れます。

しかし、その続きはどうでしょうか。

主は言われました。

「信じる者には、これらのしるしが伴う。」

信じますか。

「わたしの名によって悪霊を追い出し、

新しい言葉を語り、

蛇を取っても、毒を飲んでも害を受けず、

病人に手を置けば、その人は癒される。」

そして主は彼らの中から天に上げられました。

弟子たちは大きな喜びをもって帰り、至る所で御言葉を宣べ伝えました。

主は彼らと共に働き、

しるしと不思議によって御言葉を確かなものとされたのです。

そのとおりでしょうか。

24 その福音は、イエスが再び来られるまで宣べ伝えられるべきものです。

ああ神よ、勇気ある男たち、女たちを起こしてください。

正しいものを正しいと言い、間違っているものを間違っていると言う人を。

それは正しいか、間違っているかのどちらかです。

もしマルコ16章が真理でないなら、私は聖書を信じません。

そしてもし聖書を信じないなら——

もしイエスのためでなかったなら、私はここでイエスに反対していたでしょう。

神よ、人々が自分の言うとおりの人間となる日をお与えください。

私は言いました。

「こんなものは見たことがありません。」

そのとき彼女がこちらを向いて言いました。

「ウィリアム・ブラナム、お前は私とは関係ない。私はこの女をここへ連れてきたのだ。」

そのご主人は驚いて言いました。

「二年間、彼女が言葉を発したのは初めてです。自分の名前も分からないのに、どうしてあなたの名前を知っているのですか。」

私は言いました。

「兄弟、あれは彼女ではありません。神の賜物を悪霊が認識しているのです。自分の時が来たとき知っているのです。」

彼女はまた言いました。

「私はこの女を連れてきた。お前は関係ない。」

私はご主人に尋ねました。

「信じますか。」

「心から信じます。」

私は言いました。

「サタンよ、この人はできる限りのことをした。医者もできる限りのことをした。それでもお前はこの女を縛り続けようとしている。だが、神の御子イエス・キリストの御名によって命じる。今すぐこの女から出て行け。」

すると彼女はそのまま横たわり、二、三度、深く息を吐きました。

48 私は彼を見て言いました。

「信じますか。」

彼は答えました。

彼女は蛇のように這いながら、シューツと音を立て、吹きつけるようにして私を追いかけてきました。

その兄弟は言いました。

「だから言ったでしょう。」

私は言いました。

「兄弟、あんなものは見たことがありません。

あれは本当に悪魔です。」

彼は言いました。

「でもブラナム兄弟、あの人は本当は良い女性なんです。」

「振動がどうか言われても、私はどうすればいいのですか。」

「彼女をここまで二百何十マイルも連れてくるために、最後の持ち物だったラバまで売ったのです。」

そう言って、彼は泣き崩れ、壁に頭を打ちつけました。

47 私は言いました。

「ちょっと待ってください、兄弟。あの振動のことなどは問題ではありません。それは病の現れにすぎません。もし私が神に求めるなら、あなたは信じますか。」

彼は言いました。

「心から信じます。」

そのとき彼女は大きな足を壁につけて蹴り始めました。

そこに置いてあったベンチに頭を打ちつけ、髪の一部がごっそり抜け、血が流れました。

その髪の塊をつかみ、壁に投げつけ、しっくいをはがしました。

そして「ヒヒヒ、ヒヒヒ」と奇妙な笑い声を上げ続けました。

もしクリスチャンなら、クリスチャンとして生きなさい。

そのように振る舞い、そのように歩みなさい。

もしそうでないなら、はっきり反対しなさい。

そうすれば、人々はあなたがどこに立っているかを知るでしょう。

もし私がそれを信じていなかったなら、私は反対していたでしょう。

しかし私は、この御言葉のどの一節に対しても、自分の魂を懸ける覚悟があります。

それが真理であると言うために。

私はこれが神の靈感による御言葉であると信じています。

その一語一句が靈感によるものだと言っています。

そして私は、いつでも神の御言葉とその約束の上に、自分のいのちを託す覚悟があります。

なぜなら、それは真理だからです。

25 それでは、あと一、二のことをお話ししてから、病人のために祈り始めましょう。

よく覚えておいてください。

あなたが神と共に前進する唯一の道は、神がここにおられると信じ、そして神が熱心に求める者に報いてくださるお方だと信じることです。

それを信じなければなりません。

たとえば、ここに車椅子に座っている若いお二人に、私がこう言ったとしましょう。

「立ちなさい。あなたは癒されています。歩けます。」

また、ここに座っている他の方々に、

「立って歩きなさい。キリストがあなたを癒されたのです。」

と言ったとしましょう。

もしその人が、

「でも、私は長い間、体が不自由で……」

と言うなら、それで終わりです。それだけのことです。

あなたは、私が真実を語っていると信じる信仰を持たなければなりません。

そして私は、真実だと知っていなければ、決してそうは言いません。

私は人間ですから、間違うこともあります。

しかし神は誤ることがありません。神は完全です。

主は言われました。

「もし信じるなら、あなたの信仰のとおりになる。」

そのとおりでしょうか。

私たちはそれを信じています。

26 私は病人を見るたびに、こういうこともあります。

人々が批判し、指をさして言うのです。

「誰かを連れて行ったが、何も起こらなかった」と。

あの古い悪魔——

「十字架から降りてみる、そうしたら信じよう」と言ったあの声。

それは今日もなお、人の中に生きています。

しかし友よ、神の前に正直であるなら、確信がないことを私は語ることはできません。

あなたは、私がここに立って、あなたの非難や圧力に酔わされたようになって、神の教会に恥をもたらしようなことをすると思いますか。

決してありません。

神の力があなたの上にあるならどうなるでしょうか。

たとえ足が不自由であっても、どんな状態であっても——

神は悪魔よりもはるかに強いお方です。

それがあなたの上に臨むなら、どうでしょうか。

45 すると彼女はその大きな腕で、私を激しく引き寄せました。

当時の私は今よりずっと小柄で、体重はおよそ130ポンドほどでした。

彼女は私を床から持ち上げるほどの力で引き寄せました。

そのまま壁に叩きつけられるところでした。

しかし神の恵みによって、私の足が彼女の胸元に当たり、

その瞬間、彼女の手から振りほどくことができました。

そして、よく聞いてください。

私は振り向いて逃げ出し、階段に飛び乗りました。

すると彼女は床を這うようにして、仰向けのまま、まるで蛇のように体をくねらせながら、私を追いかけてきたのです。

それは悪霊の働きでした。

私は人格を持つ悪魔の存在を信じています。

あの婦人に取りついていたのは、まさにそれでした。

彼女は蛇のように体を動かし、私を追ってきたのです。

46 私は階段の上に立ちました。

これまで施設にも何度も行き、さまざまな光景を見てきました。

若い女性が服を脱ぎ、便器の一部を使って顔を洗うような場面さえ見たことがあります。

しかし、あのようなのは一度も見たことがありませんでした。

「大丈夫です……」

そして私は歩いて行きました。

まだ若く、悪霊への対処を十分に知らなかったころです。

靈感を受けていなければ、決して軽々しく手を出してはいけません。

何をしているのか、十分に注意しなければなりません。

あのとき、権威もなく同じようなことをしようとした若者たちのことを思い出してください。

悪霊は彼らに飛びかかりました。

ですから、慎重でなければなりません。

44 私は彼女のところへ歩いて行きました。

彼女は仰向けのまま横たわり、両手を上に上げ、目をぱちぱちとさせながら、こちらをじっと見ていました。

私は言いました。

「こんにちは、姉妹。」

彼女は何の反応も示しませんでした。

私は言いました。

「手を貸してください。」

そう言って、彼女の手を取りました。

そのとき、神が共にいてくださり、私の無知をあわれんでくださったのです。

彼女の腕は非常に強く、通常の十倍もの力がありました。

精神錯乱を扱ったことのある人なら分かるでしょう。

あれは人の力ではありません。悪霊の力です。

もし悪魔の力が人を十倍の力にすることができるなら、

私は一人の声に耳を傾けます。

それは神です。

私は世界で最良のマネージャーたちを持っていると思っています。

彼らはどこでも集会を設定することができます。

しかし私は自由です。

聖霊が「こうなさい」と言われるなら、それをするのです。

もし今この壇上から、「今すぐ国の向こう側にいる誰かのために祈りに行きなさい」と呼ばれたなら、私はすぐに行きます。

たとえここで何が起ころうとも、すぐに行きます。

犠牲をささげるよりも、従うことのほうが大切なのです。

それが真実です。

27 しかし、主が何かを語られるとき――

時々、私はその人を見つめます。

よく気づいておられるなら分かるでしょうが、私はしばしば視線をそらします。

それは、信仰の引きが私の中に入って来るのを感じるからです。

もしそこで止まってしまうと、次々に人が呼び出され始めます。

できるだけそれを避けようとしています。

会衆をじっと見つめないようにするのはです。

なぜなら、ひとりと接触した瞬間に、幻が立ち上がり始めるからです。

十人のうち九人は、すぐにそれが起こります。

しかし、その幻そのものが人を癒すわけではありません。

けれども、もし人々が信じる如果能够なら――

時には、その人に語り、何が問題かを告げることで、
 彼らは信じ始めます。
 それが信仰を与えるのです。

しかし、神がまず示してくださらない限り、私はあなたに何が悪いのかを告げることはできません。

私は……神に依存しているのです。

28 イエスは、足の不自由な人々のそばを通り過ぎ、そのままにされたことがありました。

そして言われました。

「まことに、まことに、あなたがたに言う。子は、父がしておられるのを見てする以外には、自分からは何もすることができない。」

ヨハネ5章19節です。

まず示されなければならないのです。

バラムがイスラエルを呪おうとしたとき、彼は祝福してしまいました。

バラクがその理由を尋ねると、彼はこう言いました。

「神が口に置かれない限り、預言者がどうして何かを語れようか。」

語ることはできません。

無理に語る必要もありません。

ですから、皆さんは祈りの姿勢を保ってください。

そして信じてください。

もし神があなたに何かを語るように私に示されるなら、私はそれを語りま
 す。

そして語られたなら、それを信じてください。

29 少し前のことです。

それが与えられたのは、ちょうど一年前ほどだったと思います。
 カナダのバンクーバーか、あるいはレジャイナだったでしょうか。
 そのとき主は、それが来ると約束されました。

しかし、その夜の時点では、まだ与えられていませんでした。

さて、今の話を終えたら、祈りの列を始めましょう。

43 よく聞いてください。

私は言いました。

「では、外へ出て彼女の手を握ってみましょう……」

すると彼は言いました。

「ブラナム兄弟、行かないでください。彼女はあなたを殺します。」

彼は言いました。

「救急車さえ来てくれなかったのです。」

「五人の兄弟を雇って、車に乗せました。」

「彼女は車の窓ガラスを全部蹴り割りました。五人がかりで押さえつけたのです。」

「だから、あのように出血しているのです。」

「二年間ずっと仰向けのままですが、背中から起き上がることもできません。」

私は言いました。

「まあ、とにかく行ってみましょう……」

彼は言いました。

「やめてください。」

私は言いました。

「でもブラナム兄弟、母は退院させられて家に戻りました。」

「私が出発するとき、母は夕食を準備していました。」

「ただ、あなたを抱きしめて、母が正気で家に戻れたことを喜んでいと伝えたかったのです。」

私は言いました。

「では兄弟、あなたはクリスチャンですか。」

彼は言いました。

「はい。戦場のあらゆる中で、主が守ってくださいました。私は主を信頼していました。」

私は言いました。

「神を賛美しなさい。神に栄光を帰しなさい。」

42 その兵士は、あの出来事のことを聞いていたと言いました。

そしてあの夜、階段のところに立っていたあのご主人も、その話を聞いていたのだと言っていました。

私は言いました。

「それで、あなたの奥さんは？」

彼は言いました。

「はい。」

私は言いました。

「では、私は出て行きましょう。」

その当時は、まだ“識別の賜物”は与えられていませんでした。

何がどうなっているかを知る働きは、まだ来ていなかったのです。

私は人の体に触れ、その手を握らなければなりませんでした。

そのとき初めて、その人の状態を感じ取ることができたのです。

ある婦人が祈りの列に来ました。とても速い流れの列でした。確かタルサ（オクラホマ）だったと思います。彼女は松葉杖をつけて歩いていました。

私は言いました。

「姉妹よ、あなたは私を神のしもべとして信じますか。」

彼女は言いました。

「はい、信じます。」

私は言いました。

「前に行って、その松葉杖を投げ捨て、歩いて行きなさい。」

すると彼女は言いました。

「でも先生、私はもう二年間もこの松葉杖を使っているのです。」

私は言いました。

「それなら、おそらくこれからもずっと使い続けるでしょう。」

それで終わりでした。

彼女はそのま行ってしまうました。

30 二十分ほどして、今度は二人の案内係に支えられて一人の婦人が来ました。

私はその人に御霊が引き寄せられるのを感じました。

彼女は顔を上げ、涙を流していました。

私は言いました。

「お母さん、信じますか。」

彼女は言いました。

「あなたが神に求めることは、神が必ずしてくださいと、心から信じます。」

私は言いました。

「先ほどあの婦人に言ったように、前へ行って、その松葉杖を投げ捨て、歩いて行きなさい。」

私はただ立って見っていました。

彼女は前へ進みました。弱々しい体で、二人に支えられながら。

一本を手に持ち、それから松葉杖を取り、地面に投げました。

そしてその建物の中を、叫び声を上げながら、ぐるぐると歩き回ったのです。

もし彼女が従わなかったらどうなっていたでしょうか。

まず神から確信を受けなければなりません。

そして示されたなら、言われたとおりに従うのです。

31 ここを出て行った後、もし批判的な医者に出会ったとしても――

もちろん、すべての医者が心の狭いわけではありません。

しかし、もしある医者が「あなたは癒されていない」などと言い、それを信じないとしても、

あなたはそのまま進みなさい。

神があなたに示されたことを行い続けなさい。

その声に耳を傾けてはいけません。

もし医者にかかりたいなら、神を敬う医者のもとへ行けばよいのです。

神に仕える人のもとへ。

よく覚えておいてください。

私は医者や医療、病院に反対しているわけではありません。

苦しむ人々を助け、和らげることができるものなら、どんな努力も神が祝福してくださいますようにと願います。

世界中のがんをすべて滅ぼす血清を、神がどこかで科学者に与えてくだ

「ブラナム兄弟に会いたいんだ。」

キッドソン兄弟が言いました。

「それはできません。今、祈っておられますから。」

その人は言いました。

「握手だけでいいんです。」

私は窓からのぞきました。

見ると、若い兵士でした。

私はドアを開けて言いました。

「私に会いたいのですか。」

彼は言いました。

「あなたがブラナム兄弟ですか。ああ、ブラナム兄弟！」

彼は腕を回して抱きしめ、私の首の横にキスしました。

私は言いました。

「どうしたのですか、若い兵士さん。」

彼は言いました。

「ブラナム兄弟、サンアントニオで、床に頭を打ちつけていた婦人のことを覚えていますか。」

私は言いました。

「ご親戚ですか。」

「ええ、あれは母です。」

「私は海外へ行きました。母は、私が戦争に行っていることも分からなかったのです。」

「母は十年間も施設に入っていました。」

その兄弟は言いました。

「ブラナム兄弟、医者が更年期のときに注射を打ったのです。それが頭に影響し、正気を失いました。」

彼女は二年間、施設に入れられていたそうです。

「家には五人の小さな子どもがいます。」

「彼女を治そうとして、農場も何もかも売りました。」

「けれども、ついには連れて行かれてしまいました。」

彼は続けました。

「以前、パインヴィルの精神施設に十年間入っていた婦人が、あなたが通りかかったときに正気に戻ったと聞きました。」

そのとき、その婦人は私のズボンの裾をつかみました。

娘さんが言いました。

「神よ、あわれんでください。」

その兄弟は言いました。

「ブラナム兄弟、神にお願いしてください。」

私は尋ねました。

「神がなさると信じますか。」

「はい、信じます。」

私は神に祝福を求めて祈りました。

その間も、彼女は床に頭を打ちつけていました。

まだ若い婦人でした。

41 その出来事から二週間ほど後のことです。

私はサンアントニオにいました。小さなツーリストキャンプに滞在していたのですが、外で誰かが言い争っている声が聞こえました。

さるよう、私は祈ります。

結核や、あらゆる病を打ち消すものが与えられることを願います。

私はそれを信頼しています。

そうなるように祈っています。

32 しかし兄弟よ、神ご自身がなさらない限り、真の癒しは起こりません。

「わたしはあなたのすべての病を癒す主である。」

癒しは、究極的には神から来るのです。

どんなに優れた医者でも、自分の薬を飲んでなお死ぬことがあります。

それは事実です。

少し前のことですが、カリフォルニアであるクリスチャン・サイエンスの女性が、子どものために神に信頼していましたが、その子どもは亡くなりました。

すると、メイン州からカリフォルニアまで、新聞はこう書き立てました。

「神の癒しは狂信である。医療を受けずに赤ん坊が死亡。」

しかしその同じ時期に、全国で医師たちは少なくとも一万件の症例を失っていました。

けれども、医療科学を「狂信」とは誰も呼びません。

ですから、物事を一面的に見るべきではありません。

癒しの源は神です。

医療も神の恵みの一部であり得ますが、究極の癒し主は主ご自身なのです。

33 もし今夜この墓地に行つて、こう言えたとしましょう。

「医療を受けて亡くなった人は立ちなさい。

主に信頼して亡くなった人も立ちなさい。」

そしてそれを秤にかけるのです。

同じ基準で測るべきです。

もし、神の癒しを信じたある一件が失敗したという理由だけで、それをすべて「狂信」と呼ぶなら――

同じように、医療のもとで一人でも亡くなったなら、それも狂信と呼ばれるべきではありませんか。

さあ、理性的に考えましょう。

神の癒しで一件失われたからといって、それを全面的に否定するなら、

毎日、町やその周辺で医療のもとで亡くなっている何百もの人々はどうなるのでしょうか。

どちらにも限界があります。

人は死にます。

しかし癒しの源は神です。

そして最終的な命の主も、神なのです。

34 さて、人が本当に心を持っているなら――

もしお金に執着せず、少しの損失を恐れずにいるなら――

こう言えるはずですよ。

「兄弟よ、牧師も皆も共に、この働きの中で協力し合い、隣人を助けようではないか。」

そうなれば、世界はもっと良くなります。

そのとき、神は私たちが祝福してくださいます。まことですよ。

私は医療科学に反対しているわけではありません。

何かを裁くためにここにいるのでもありません。

私は福音を宣べ伝え、病人のために祈るためにここにいるのです。

私は誰も癒すことはできません。

た。

「信じなさい、信じなさい。」

何でも出来るただ、信じなさい……」

ビー玉を弾く前に、「ただ信じなさい」を歌っていたのです。

40 その夜の集会で、ブラウン兄弟が言いました。

「こちらへ来てください、ブラナム兄弟。今まで見たことのない光景をお見せします。」

私は階段を下りて行きました。

そこには、いかにもアーカンソーらしい年配の兄弟が、色あせたオーバーオール姿で立っていました。講堂へ下りる階段のところですよ。

私は言いました。

「こんにちは。」

彼は答えました。

「こんにちは、ブラナム兄弟。」

私はさらに下へ行き、尋ねました。

「その方はどこですか。」

「そこにいます。」

角のほうに、一人の婦人が横たわっていました。

体格のよい、腕も脚もたくましい女性でした。

血が脚を伝って流れていました。

彼女は仰向けに倒れ、両足をまっすぐ上に突き出し、両手も上に上げたまま、角に横たわっていました。

私は言いました。

「なぜ出血しているのですか。」

あの小さな歌をご存じでしょう。「ただ信ぜよ」。

エレベーターに乗って降りているとき、誰かが歌っていました。

「ただ信ぜよ、すべては可能、ただ信ぜよ。」

それはエレベーターボーイでした。レバーを操作しながら、立って歌っていたのです。

私は外へ出て、街の裏通りを歩き始めました。

すると、一人の母親が古い籐底の椅子で赤ん坊を揺らしているのが聞こえました。

あの昔のヒッコリーの底の椅子をご存じでしょう。

ヒッコリーで編んだ椅子です。

私自身も、そのような椅子で育ち、揺らされたものです。

39 その年老いた母親は赤ん坊を抱きながら、ゆっくりと揺らしつつ歌っていました。

「信じなさい、信じなさい、

何でも出来る、ただ信じなさい。」

私は心の中で言いました。

「神よ、ありがとうございます。あの婦人が集会に来てくださいますように。」

さらに通りを歩いていきました。

すると、とてもかわいらしい光景がありました。

小さな男の子がビー玉で遊んでいたのです。私は通りすがりに立ち止まって見していました。

片方のズボンのすそは下がり、もう片方はまくり上げたまま。

彼はビー玉を弾こうとして、しゃがみ込みました。

そして私のそばまで来ると、立ち上がり、ズボンを払って、こう歌い始めまし

どんな医者も、人を癒すことはできません。

彼ら自身も「癒し主」であるとは主張していません。

メイヨーのような権威ある機関でさえ、こう言っています。

「私たちは癒し主とは言わない。ただ自然を助けるだけだ。

癒し主はただお一人、神である。」

それが最良の見解です。

ですから、もし医者が自分を癒し主だと言うなら、それは偽りです。

同じように、私は偽りの牧師もたくさん見てきました。

神の御言葉を信じないものは、私にとってはすべて偽りです。

御言葉をそのまま受け取り、

正しいものを正しい、間違いを間違いと言う覚悟が必要です。

神を信じなさい。

神に信仰を持ちなさい。

35 聖霊の靈感がここにあつて、あなたを動かしているとき、覚えていてください。

神は、あなたの告白にあなたの体を従わせられます。

もしあなたが「自分は酒飲みだ、酒が欲しい」と言うなら――

心配しなくても、そのとおりになります。

「自分は罪人だ、罪を犯したい」と言うなら――

その道へまっすぐ進むでしょう。

しかし、「私はクリスチャンだ」と告白し、それを信じ続けるなら――

あなたの証しが、あなたをその現実の中へ導きます。

癒しを信じ、神があなたを癒されたと信じるなら、

それを告白しなさい。

神はあなたの体を、その告白に従わせられます。

なぜなら、主はあなたの告白の大祭司であり、

今、御自身の御血をもって父の右に座し、

ご自身が死によって成し遂げられたすべての約束について、

あなたの告白のために執り成しておられるからです。

主は罪を取り除くために死なれました。

そして病は罪の結果です。

「彼は私たちの背きのために傷つけられ、

その打ち傷によって私たちは癒された。」

それを覚えていてください。

信仰を持ちなさい。

揺らいではいけません。

そこに立ちなさい。

36 ある時の一件を思い出します。私がこれまで見た中でも、最もひどい状態の一つでした。それは祈りの列に入る直前のことでした。

ところで、これらの証しを受け取りたい方はどれくらいおられますか。今お話ししているような証言をお送りすることもできます。私は夜ごとに語っています。

もしその証しをお望みなら、

リトルロック(アーカンソー州)505 Victor Street

G. H. Brown 牧師宛てにお書きください。

さて、あのハンカチのことを人々がからかったことがありました。あのようなことが起こるはずがない、と。

しかし、私は不信者に信じてもらおうとは思いません。

それは信じる者のためのものなのです。

37 それはまさにこの同じ集会、この同じ夜のことでした。

あの小さな婦人が、血のしみのないハンカチを持って立っていました。

彼女の腕は大きく裂けて開いており、何千人もの人々の前に証人として立っていました。

そして血は止まっていたのです。

なぜ止まったのか、誰も理解できませんでした。

神が止められたからです。

そもそも、あなたはどうやってこの地上に来たのでしょうか。

命の胚はどのようにして生まれたのでしょうか。

それは創造主なる神によるのです。

38 少しの間、しっかりと聞いてください。

その夜、十一時ごろでした。

ブラウン兄弟が講堂で私に言いました。

「ブラナム兄弟、精神疾患の患者のところには、いつ行けますか。」

彼らはたいてい、そのような人たちを別にしておくのです。集会を乱すからです。

そして、悪霊が人から出て行くとき、その様子は実に恐ろしいものになることがあります。

彼は言いました。

「あなたが来られる前に、私は生涯で一番恐ろしいものを見ました。

地下室に彼を下ろしておきました。」

その朝、私は通りを歩いていました。